

したりしている。

ここに当時の人びとの生活と宗教の強いかかわりあいを見ることができると。

(平成五年一月例会)

明治初年の私立医学校「済生学舎」・ 慶応義塾医学所・成医会講習所」について

唐 沢 信 安

官尊民卑の時代に私立医学校として、明治初期から中期にかけて繁栄した済生学舎、慶応義塾医学所、成医会講習所の発展史について述べることにする。

一、済生学舎

現在の日本医科大学の源流の「済生学舎」は、明治九年四月九日、長谷川泰により本郷元町一丁目六十六番地(現順天堂大学裏)に創立された。初期の教師は、長谷川泰(元第一大学区医学校長・三十三歳)と弟の長谷川順次郎進医学士・同郷の山崎元脩進医学士の三人の教師を中心に開校された。

明治十七年には全国から医学を志す学生が集まり、四百八十四名在学し、教師は十六名に達した。(長谷川泰は明治十五年に学校を湯島四丁目に移転している。)更に明治十七年に「東京医学専門学校・済生学舎」と称し、東京府知事と文部省に届出ている。

学内も次第に充実し、吉岡弥生が明治二十二年から二十五

年まで在学している。野口英世も明治二十九年十月より三十年八月三十日迄、約一年間済生学舎に学んでいる。

明治三十一年暮から明治三十二年にかけて「大日本医会」(会長高木兼寛・会員四万人)から「医師会法案」が国会に提出された。この時、東京大学医科大学の教授入沢達吉、青山胤道等六十名は「医師会法案反対同盟」を造り激しい反対運動を起こした。その結果貴族院で否決され廃案に持ちこまれた。

反対同盟は「明治医会」と改称し、私立医学校撲滅運動(医学教育の統一論)を起こし、済生学舎の廃校を目標にして高等教育会議で協議をした。明治三十六年三月「専門学校令」を勅令の型で発布し、済生学舎の存続を文部省は認めなかった。独り苦しんだ長谷川泰は、ついに「廃校宣言」を出した。

二、慶応義塾医学所

現在の信濃町にある慶応大学医学部は大正六年に造られたものである。

しかし明治六年十月に、福沢諭吉は高弟の松山棟庵と協議の上、慶応義塾の一分科として、松山棟庵の自由裁量の下で医学科を設けた。修業年限は二ケ年で、主としてハルツホルンの教科書を用いた。医学所は新宮涼園、杉田武、松山誠二等が助けた。七年間続いたが、明治十三年本校の慶応義塾の経営が急激に悪化し、経営危機に陥つたため、慶応医学所は廃校となった。その間三百余名の卒業生を出したが、西南戦争後のインフレで学生が減少し、継続不能となった。

